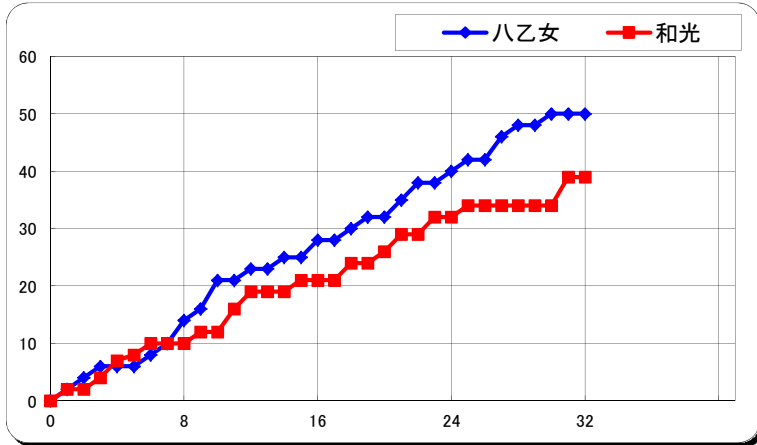




【得点経過】



大会名	東日本大震災復興支援平成24年度全国中学校体育大会第42回全国中学校バスケットボール大会																	
会場	さいたま市記念総合体育館																	
日時	平成24年8月22日(水) 13:30																	
コート	Dコート 第4試合																	
カテゴリ	女子	予選Pリーグ																
主審	藤代 透 (東京都)																	
副審	伊藤 美里 (埼玉県)																	
Team A			Team B															
八乙女	50		39 和光															
(宮城県)		<table border="1"> <tr><td>14</td><td>1st</td><td>10</td></tr> <tr><td>14</td><td>2nd</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>3rd</td><td>11</td></tr> <tr><td>10</td><td>4th</td><td>7</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	14	1st	10	14	2nd	11	12	3rd	11	10	4th	7	OT			(北海道)
14	1st	10																
14	2nd	11																
12	3rd	11																
10	4th	7																
OT																		

【BOXスコア】

Team A		八乙女						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	細貝 野乃花	×	15	3	2	2	3	
5	大泉 さくら	×	6	0	3	0	2	
6	山田 沙和	×	0	0	0	0	0	
7	伊藤 紗南	DNP	0	0	0	0	0	
8	黒坂 綾華	DNP	0	0	0	0	0	
9	渡辺 舞花	DNP	0	0	0	0	0	
10	鈴木 那巳	×	18	1	6	3	2	
11	飯野 優稀	×	10	0	3	4	1	
12	安田 琉香	DNP	0	0	0	0	0	
13	田中 真愛	/	1	0	0	1	2	
14	岡崎 奈菜	DNP	0	0	0	0	0	
15	富永 千穂	DNP	0	0	0	0	0	
16	高橋 綾佳	DNP	0	0	0	0	0	
17	櫻井 綾香	DNP	0	0	0	0	0	
18	熊谷 美穂	DNP	0	0	0	0	0	
監督	川田 容子						0	
コーチ	吉岡 幸子						0	
合計			50	4	14	10	10	

Team B		和光						
番号	選手名前	出場	得点	3P	2P	FT	反則	
4	角田 千奈津	×	7	2	0	1	1	
5	上家 菜々子	×	11	3	1	0	4	
6	本城 いづみ	DNP	0	0	0	0	0	
7	共田 彩美	/	2	0	1	0	0	
8	山崎 朋香	×	4	0	2	0	2	
9	島谷 莉央	×	6	0	2	2	2	
10	深澤 楓	DNP	0	0	0	0	0	
11	時田 美央	DNP	0	0	0	0	0	
12	吉田 真悠	DNP	0	0	0	0	0	
13	山野下 碧	×	2	0	1	0	1	
14	白幡 美幸	/	7	0	3	1	3	
15	黒澤 康予	DNP	0	0	0	0	0	
16	山田 みなみ	DNP	0	0	0	0	0	
17	共田 郁美	DNP	0	0	0	0	0	
18	志賀 茉有	DNP	0	0	0	0	0	
	岡元 優						0	
コーチ	三瓶 浩史						0	
合計			39	5	10	4	13	

【戦評】

東北代表仙台八乙女中学校と北海道代表苫小牧和光中学校の対戦。1Q、八乙女は2-1-2 Def、和光はオールコートマンツーマンDefでスタート。八乙女中#11と和光中#5のミドルシュートの応酬で始まり、2分経過して4対4のスコア。和光中が相手ゾーンディフェンスに対してペースを掴みきれず14対10で八乙女中リードで1Q終了。2Qは両チームとも1Qと同じディフェンスでスタート。和光中が八乙女中のゾーンディフェンスを上手くパスで崩すも、シュートに決定力がなく得点が伸びない。それに対して八乙女中は#10のミドルシュートやスリーポイントシュートを中心に着実に得点を決め、差を9点に広げた。終了間際に和光中がオールコートゾーンプレスDefをしかけ28対21で前半を終了した。

3Qに入るとお互いにオールコートのゾーンプレスを仕掛けながらのDefでスタート。和光中は前半同様八乙女中のゾーンDefに対して外角シュートを打つが決まらず、差をつめることができない。一方八乙女中はDefリバウンドをしっかりと支配し、#4のスリーポイントも効果的に決まり、40(八乙女)対32(和光)の8点差で3Qが終了。最終4Qは和光中の必死のオールコートプレスDefで食い下がるも、最後までシュートを決めきれず、流れを引き寄せることができなかった。最終的にゾーンDefで上手く守った八乙女中が50対39で勝利をものにした。

【戦評記入者】

菅家 真吉

埼玉県中学校体育連盟 バスケットボール専門部